

# 第7回国際ガーデン EXPO 盛況

2013年10月9日～11日、園芸・造園業界におけるアジア最大の専門展「第7回国際ガーデン EXPO (GARDEX)」が幕張メッセで開催された。本展示会は、世界中からガーデニングに関する様々な企業が出展し、大いに賑わいを見せた。また、国際フラワー EXPO、国際エクステリア EXPO、国際道具・作業用品 EXPO、農業資材 EXPO が同時開催され、930社が出展。来場者数も過去最高の34,118人(10月15日来場者数速報値)となった。近年、新規出展社が多数見られ、特に農業資材の出展社が急増している。今回も来場者にとっては非常に魅力的な展示会となった。

今回当社は、ブースを大々的に展開し園芸肥料、園芸培養土の新商品、農業用肥料を展示した。特に注目を浴びたのは、来春に向けて新規上市予定の東京農業大学とのコラボレーションで開発した『高機能園芸用土』を先行PR。原料はゼオライトとピートモスなどの土壌改良資材を主原料としており、物理性(保水性・通気性)に優れ、植物に効率よく肥料を供給。また、ゼオライトと鹿沼土の機能で硝酸態窒素の流亡を抑制する環境にやさしい園芸用土となっている。産学連携の試みとして、業界関係者だけではなく、多数の来場者に興味を持って頂いたようだ。また、来春上市予定の新商品として『花を育てる培養土』、『野菜を育てる培養土』を展示。本商品のキャッチセールスは有機質肥料を配合した、そのまま使えるお手軽な簡単培養土である。その他に芝の目土・床土、赤玉土3種、黒土、鹿沼土、更に新たに植木用として新規上市予定の『手軽に簡単IB肥料で始めよう!』シリーズ、『スーパーコントロール100日・180日タイプ』『ぼかし肥料』『バットグアノ』も展示を行い、多数の訪問者の対応に追われた3日間であった。(右写真ご参照)

同ブース内には、協賛出展として清和肥料工業(株)、豊田有機(株)、昭和パックス(株)、(株)サンプルーム、ジェイカムアグリ(株)の各社にご協力を頂き、各ブースで自社商品を展示、沢山の来場者にお越し頂き大好評を得ていた。

(次ページへ続く)



大手量販店などのトップによるオープニングセレモニー



来春新規上市予定の商品です。詳細は当社特販部までお問い合わせください。電話：03-5275-5513

当社ブースには、従来より懇意にさせて頂いているお取引先様や新規の方にも沢山ご来場頂き、種類豊富な提案を行うことができ、大変良いアピール機会となった。当社スタッフからは「前日からの設営と、3日間の展示スタッフとして動員されたことは、普段の業務とは全く違うので体力的にはきつい面もあったが、たくさんの方たちと出会えて刺激もあり、とてもいい経験になった」との声もあった。担当の特販部は、お越し頂いた来場者皆様に向けて、今後も良い提案をさせて頂けると確信すると同時に、来年も継続して出展する意向。また、昨年に引き続き、展示会開催にあたりノベルティ（当社のネーム入り折りたたみ傘）を作成して来訪者にお配りし、当社のアピールに一役買った。今回、御協賛頂きました各社皆様、誠にありがとうございました。



## 温暖化の影響か～台風の猛威 農産物にも爪跡残す

去る10月16日、関東地方に台風26号が襲来、伊豆大島では大雨により大規模な土石流が発生、多数の死者行方不明者を出し甚大な災害となっている。気象庁では大型台風の接近に備えて注意を呼び掛けていたが本島でも高波に浚われるなどして死者が発生した。また、朝の通勤時刻に接近したために交通機関が麻痺、教育機関では半休や休校など混乱を来した。22日現在でも千葉県内のJRでは一部運休の路線がある。9月以降に日本列島に接近した台風は現在北上中の台風27、28号を含めると10個。1951年以降の台風の記録が残る1966年の9つを超える高い発生となっている。



倒伏して根があらわになったブロッコリー（埼玉）

台風26号で関東・東北地方では農産物の生産にも大きな被害をもたらした。関東地方の露地秋野菜では早生モノについて定植時期の干ばつによる活着不良が生育に影響した。現在の野菜相場が堅調なのはそのためだ。定植期以降は天候も落ち着いて比較的生育も持ち直していたのだが台風26号により状況が一変した。収穫間近なダイコンやキャベツ等の重量野菜は雨風に叩かれて外葉が破損し出荷に耐えられないものが発生している。また、今回の台風は猛烈な降雨の影響もあり土地が低いところでは写真のように冠水してしまい収穫出来ない所も出ている。台風後の細菌等の病気の発生も注意しなければならぬ。



冠水被害を受けた白菜・キャベツ畑（茨城）

秋野菜だけではなく、9月15日現在のコメの作況指数速報（全国平均102）が農水省より発表された、が関東のみならず東北地方でも目を追う毎に稲の収量が思ったほど良くないという便りが集まってきている。長梅雨と低温の影響で下位節間が伸びすぎ、台風で倒伏してしまったコシヒカリなどの品種が良くない。また、関東の一部早生モノ産地では早生のあきたこまちは良かったがコシヒカリの品質が悪く1等米比率が40%台という低い値が報告されている。夏の高温が影響しており登熟不足が影響しているようだ。10月15日以降の水稻作況指数の動向が気になることころだ。これも温暖化の影響とみてよいと考えられるだろう。来年に向けて栽培品種の再選定や肥培管理方法を見直すきっかけとなるだろう。

大成功に終わったGARDEXには、私もスタッフとして三日間携わりました。この商品使ってる！と云ってくださるお客様に会うのはとても嬉しく、当社の商品がより広く店頭に並ぶ為更に頑張ろうと思いました。ご紹介商品にご興味があれば、特販部まで是非ご連絡下さい。編集事務局：南部、助川